

令和三年度
名寄市立大学
学校推薦型選抜・社会人選抜

小論文問題

試験時間 一〇時〇〇分～一一時三〇分（九〇分）

*受験上の注意

- ① 指示があるまで開いてはいけない。
- ② 指示に従って、静粛に行動すること。
- ③ 机上には、受験票、筆記用具、消しゴム、鉛筆キャップ、鉛筆削り、時計、眼鏡、目薬、袋・箱から出したティッシュペーパー以外、不要なものは置かないこと。
- ④ 質問、用便その他、特に必要のある場合は黙って手を挙げ、指示を求めること。
- ⑤ 不正を行ったものは試験を中止し、以後の受験資格を失うものとする。

次の文章を読み、あとの間に答えなさい。

年を取っていることと、老いることは同じなのだろうか。全国の60歳以上の男女6000人を対象にして、2014年に内閣府が行った高齢者の日常生活に関する意識調査の中に糸口を求めてみよう。

「一般的にいつて、何歳ぐらいの人を高齢者だと思うか」という問いに対して、回答者たちの多くが70歳以上の人を挙げ、次いで75歳以上、80歳以上、65歳以上の順になった。一方、回答者自身に対して「自分を高齢者だと感じるか」と尋ねる問いには、回答者の半分以上が「いいえ」と答えた。ただし自分の年齢が高くなるほど、高齢者だと感じる割合は増えていく。70～74歳の回答者の場合、約半分の人が自分を高齢者と考えており、75～79歳の回答者になると約7割がそう感じている(1)。

今度は、2016年に厚生労働省が40歳以上の男女3000人を対象に実施した、高齢社会に関する意識調査も見てみよう。この調査の中で「あなた自身について、何歳から高齢者になると思うか」という問いに対して、最も多かった回答は70歳以上だった。これは全体の約4割を占める(2)。

二つの意識調査をまとめると、私たちは70歳から75歳を超える年齢の人を高齢者とみなしているはずはいえるだろう。この結果からすると、年を取っていることと老いることはほぼ同じだと考えられているように思える。

ところが、1998年に実施された内閣府の同じ調査結果を見ると、65歳から70歳以上の人を高齢者とみなす回答者が多かったことがわかる(3)。上で見た2014年の調査では、70歳から75歳以上の人を高齢者とする回答者が多かったのだから、約16年の間に高齢者のスタートが5歳遅くなっていることになる。つまり高齢者として想定される年齢は、時期によって変わっているのだ。

興味深いことに、回答者の年齢が上がると高齢者だと思ふ年齢も上がる傾向がみられる。2016年の厚生労働省の調査を見ると、40歳から60歳の回答者では、80歳から高齢者だと答えた人は1～2%しかない。しかし75歳以上が回答者の場合は、そう答える人が14%以上になっているのである。これに関連したボーヴォワールの話題も取り上げよう。ボーヴォワールは50歳のときに、女子学生が「ボーヴォワールって、もうばあなのね!」と言っていると人づてに聞いて愕然としたと著している。さて、現在は50歳の女性を老齢の女性として扱うだろうか。それともボーヴォワールの時代はそうだったのだろうか。しかし、ボーヴォワール自身にとって50歳はまだ老いた歳ではないからこそ愕然としたのではないか。それとも年若い女学生から見れば、いつの時代でも50歳の女性は老けているのだろうか。答えがいずれにせよ、この話題からも老いは客観的な指標としての年齢で決ま

るのではなく、時代によって、場所によって、また評価する人によって変化するといえるように思える。

老いの自覚に関していえば、年齢とは別に健康状態が深く関わっている可能性がある。2016年の厚生労働省の調査解説は、高齢者になると思う年齢は健康寿命と関係がありそうだと報告している。健康寿命とはWHOが提唱した概念で、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間という意味である。厚生労働省が2019年に公表した簡易生命表によると、平均寿命は男性が約81歳、女性が約87歳である。健康寿命は2016年時点で、男性が約71歳、女性が約74歳と報告されている(4)。健康寿命の年齢と、高齢者だとみなされる年齢とに重なりを見て取ることができる。ここからすると、重要なのは健康上の問題であって、年齢はそれに付随した二次的なものといえるかもしれない。目がよく見えなくなった、耳がよく聞こえなくなったなどの肉体的変化によって日常生活に影響が出る頃に、高齢者だと自覚するようになる傾向があるのだ。

さらに2014年の内閣府の調査を見ると、親しい友人や仲間がいないと感じる人ほど、自分を老いていると感じる割合が高い結果が出ている。周囲の人間たちとの関係が良好であればあるほど、老いは経験されにくいのである。人間関係が老いに関係するということは、老いというのは単に自分自身の肉体的変化だけに限られるのではなく、自分が置かれた状況も関わってくるということを示しているように見える。

先ほどは、年を取っていることと老いることはほぼ同じだといったが、これはかなりおざっぱな言い方だったようだ。老いには健康問題や周囲との関係も深く関わっている。だから、年を取っていることと老いることは同じようであり、単純に同一視できるものではないようなのだ。

註

(1) 内閣府「平成26年度高齢者の日常生活に関する意識調査」Q 27、Q 28<<https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h26/sougou/zentai/index.html> (最終確認日：2019年8月31日)>

(2) 厚生労働省「平成28年版厚生労働白書——人口高齢化を乗り越える社会モデルを考える」第1部第2章第4節<<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/16/> (最終確認日：2019年8月31日)>

(3) 内閣府「平成10年度高齢者の日常生活に関する意識調査」Q 29<https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h10_sougou/pdf/0-1.html (最終確認日：2019年8月31日)>

(4) 厚生労働省「平成30年簡易生命表概況」<<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/>

『フェミニスト現象学入門 経験から「普通」を問い直す』稲原美苗・川崎唯史・中澤瞳・
宮原優編 ナカニシヤ出版 二〇二〇年より)

問一 なぜ筆者は「年を取っていることと老いることは同じようできて、単純に同一視
できるものではないようだ」(傍線部)と述べているのか。その理由を二〇〇字
以内で説明しなさい。

問二 人にとって「老いる」とはどのような経験であるのか、あなたの考えを六〇〇字
以上八〇〇字以内で述べなさい。